

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme PRESS

【エクストリームプレス】 by AJPS

Vol. 10

2013 AUTUMN

特集「X League」

日本社会人アメリカンフットボール



FREE

ご自由に
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

Extreme PRESS

Vol.10

「日本スポーツプレス協会」
(Association Japonaise de la Presse Sportive)
1976年に発足。国内外の第一線で活躍するスポーツ
フォトグラファー、ジャーナリスト170名以上が所属。



[Cover Photo]

荒川雅臣 - 写真 Photo by Masaomi Arakawa

1stステージ、最終節。冷たい雨。試合終了の時は迫る。
しかし、男たちが諦めることはない。わずかなチャンスも逃さない。そして突破口を開け！その気迫はレンズを通して突き刺さる。緊張の中、ボールはセットされた。その行方を見とどけよう凝視し続けた。

2013.10.20 BULLSフットボールクラブ×ハリケーンズ 横浜ST
Nikon D4 AF-S NIKKOR 200-400mm F4G ED VR II
1/800 F4.0 ISO1600 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロコンパクトフラッシュ カード
64GB

www.ajps.jp

Publishing / AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)
Publisher / Akito Mizutani
Producer / Yoshiyuki Osumi
Planning Director / Rimako Takeuchi · Takahito Mizutani
Editor in Chief / Masaomi Arakawa
Editor / Hidetoshi Imai · Yoshiharu Hatanaka · Tsutomu Takasu
Noriko Hayakusa · Atsushi Nakayama · Gen Matsueda
Design / Atelier [art] Rika Ito
Printing / Hankyu Co.,Ltd.

特別協力：一般社団法人 日本社会人アメリカンフットボール協会
<http://www.xleague.com>

CONTENTS

「進撃」

巻頭エッセイ Vol.10

「究極の戦いへの誘い」

加藤康博 文 Text by Yasuhiro Kato

Moments

Michi ISHIJIMA - 写真 Photo by Michi Ishijima

中村拓人 - 写真 Photo by Takuto Nakamura

弓庭保夫 - 写真 Photo by Yasuo Yuba

渡辺二美一 - 写真 Photo by Fumikazu Watanabe

木村善仁 - 写真 Photo by Yoshihito Kimura

築田 純 - 写真 Photo by Jun Tsukida

田中伸弥 - 写真 Photo by Shinya Tanaka

Close Up

小池淳義 Atsuyoshi Koike [Xリーグ ハリケーンズ 総監督]

「アメリカ人だけに楽しませておくのはもったいない！」

大住良之 文 Text by Yoshiyuki Osumi

荒川雅臣 - 写真 Photo by Masaomi Arakawa

Impression

「デジタル時代に輝く光と影のコントラスト」

薬師洋行 - 写真 Photo by Hiroyuki Yakushi

中山 淳 文 Text by Atsushi Nakayama

Moments

「進撃」

「究極の戦いへの誘い」 加藤康博

「究極のスポーツ」

アメリカンフットボールはそう呼ばれている。

限りなく戦術を追求できる高度なゲーム性。加えて試合時間がショットドリルしやすく、エンターテイメントを織り込み、ファンを楽しませることもできる。ポジションは完全に分業化され、攻撃と守備では別のチームが構成される。そのため選手の専門性も極限まで磨かれる。知れば知るほど、その魅力の多さと深さに気づく。

アメリカンフットボールは「準備のスポーツ」とも呼ばれる。

シーズン開幕に向け、チームは様々なテストを選手に課し、あるいはかける。あるチームでは特定のポジションの選手には体重15倍のベンチプレスをノルマとする。達成できなければ防具を身につけての練習すら許されない。40ヤードダッシュのタイムも重要な指標となる。デカイだけの者に務まるポジションはない。パワー、スピード、アグリティ、そしてテクニック……。求められる要素が多い。だから選手は徹底的に準備する。

チームのためだけではない。タックルを受けて後ろに倒れる「アオテ

ン」は一番の屈辱だ。逆に鮮やかなステップでかわされ、タックルが虚空を掴む姿は親にも妻にも見せられない。彼らは自分のプライドを守るためにも鍛えるのだ。

フィールドに立つ11人の選手をいかに有機的に動かし、相手を幻惑させ、ボールを前に進めるか。それを考へるのはコーチの仕事である。

Xリーグでは攻撃の基本プレーはおよそ100。フォーメーションによってそれは変化し、実際はその数倍に増える。戦況と相手の狙いを読み取り、その中から最適なプレーが選択され、選手へと伝えられる。ここで選択ミスが起ると一気に戦況が相手に傾いてしまうのがアメリカンフットボールの怖さだ。だから時に慎重に、時に大胆に。両チームのコーチ陣はフィールドを挟んで知力を競い合う。

準備に準備を重ね、試合に挑む時、文明社会に生きる男たちの闘争本能も爆発する。

肉体と頭脳がぶつかり合う究極の戦い。そこには究極の興奮も待ち受けている。

Michi ISHIJIMA - 写真 Photo by Michi Ishijima

2ndステージでの顔合わせとなった東西を隔て共にアサヒをスポンサーとするクラブチーム対決。プロテクターのぶつかる接触音がリズムを刻み、舞い上がる芝が炭酸の泡の如く攻守や勝敗を隔てる事無く包み込む。熱い男達の情熱に乾杯。

2012.11.10 アサヒビールシルバースター×アサヒ飲料チャレンジャーズ 大井ふ頭中央海浜公園 第2球技場
Nikon D4 AF-S NIKKOR 400mm F2.8G ED VR 1/2000 F4.5 ISO320 ホワイトバランス オート サンディスク エクストリーム コンパクトフラッシュ カード 32GB



中村拓人 写真 Photo by Takuto Nakamura

走る、タックルを巧みにかわし走る。「1ヤードでも多く敵陣に切り込む事が俺の使命だから」チームメイトの築いたエンドゾーンへの道。「ここで獲れるだけにはいかない、一歩でも先に脚を進めたい」走る、ディフェンダーを引きずりながら走る。

2013.10.5 ノジマ相模原ライズ×明治安田ハイレーツ 川崎球場
Canon EOS-1D Mark III EF300mm F2.8L IS USM + EXTENDER EF2xIII
1/250 F6.3 ISO640 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 64GB



弓庭保夫 写真 Photo by Yasuo Yuba

クオーター・バックはゲームの行方を左右する。そのキープレーヤーを押さえ込もうとディフェンスの大男たちが猛烈と襲い掛かる。クォーターバックをファインダーで追っていたが、画面へ入ってきたディフェンダーの迫力に思わず対象を変えてシャッターを押した。

2013.9.23 ノジマ相模原ライズ×明治安田ハイレーツ 王子スタジアム
Canon EOS-1D X EF500mm F4L IS II USM EXTENDER EF1.4xIII
1/2500 F6.4 ISO800 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB



渡辺二美一 写真 Photo by Fumikazu Watanabe
ボールを持たない選手へのコンタクトも許されるアメフト。故にフィールドの至る所で、選手たちは激しいぶつかり合いをみせる。ヘルメットの奥に見える必死な形相の積み重ねが、チームを勝利に導くのだろう。
2013.9.1 富士通フロンティアーズ×ハリケーンズ 川崎球場
Canon EOS-1D X EF400mm F2.8L IS USM +EXTENDER EF1.4xIII
1/1000 F4.0 ISO400 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード 32GB

木村善仁=写真 Photo by Yoshihito Kimura

ファーストダウンを得るために、エンドラインに向けてランでの突破。チームメイトは仲間を助けるべく相手とぶつかり合い、反対に攻撃権を奪うべく演じにかかる選手。力勝負の競技なのだが、その動きは計算された知能戦でもある。

2013.9.22 ノジマ相模原ライズ×警視庁イーグルス 川崎球場
Nikon D90 AF-S NIKKOR 600mm F4G ED VR
1/1600 F4.0 ISO640 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB



篠田 純=写真 Photo by Jun Tsukida

タッチダウンを目指して突進する選手! それを必死のタックルで止めるディフェンスの選手。この攻防がアメフトの魅力だ。「止めたぜ! 俺」雄叫びがスタジアム全体に響き渡った。

2013.9.15 鹿島ティアーズ×ハリケーンズ 川崎球場
CANON EOS-1D X EF200-400mm F4L IS USM エクステンダー 1.4x
(エクステンダー使用) 1/1250 F5.6 ISO800 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB

田中伸弥写真 Photo by Shinya Tanaka
チームスポーツの中で最も多くの選手が出場するアメリカンフットボール。彼らは試合前に必ずキャプテンを中心に集まり、勝利を誓って人差し指を天高く上げる。選手の群れが最初に躍動する瞬間だ。そんな瞬間が撮りたくて、魚眼レンズでハイアングルから狙った。
2013.9.23 鹿島ディアーズ×BULLS フットボールクラブ 川崎球場
Canon EOS-1D X EF15mm F2.8 フィッシュアイ
1/1250 F5.6 ISO800 ホワイトバランスオート
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード 32GB



「アメリカ人だけに もったいない！」

小池淳義

[Xリーグ ハリケーンズ 総監督]

アメリカンフットボールに魅せられて40年、
Xリーグに所属するクラブチーム
「ハリケーンズ」を率いる小池は、いま、
「日本人としてアメリカンフットボールをすることの意味、
日本社会のなかでのアメリカンフットボールチームの
存在意義」を考え続けている。

—アメリカンフットボールとの出会いは？

小池 高校まではあまり本格的なスポーツはしていませんでした。早稲田に入った時、「来たれ若者」というアメリカンフットボール部の勧誘にぶつかってしまい、いわく「大学で一から始めて日本一になれるのはこのスポーツだ」と。確かにそうかもしれないと思いました。

—最初に魅力を感じたのは？

小池 極限までエネルギーを費やすことの喜びを知ったことでしょうか。アメリカンフットボールに限らないかもしれません。

—第二には？

小池 非常に科学的であること。相手の分析、作戦や戦略など試合前の準備が大きな意味をもち、結果は試合前に半分以上決まってしまう。「プレーブック」というノートに「こういう作戦はどうか」など、何十冊も書き込みました。その研究が楽しかったですね。そして第三に「チームワーク」。自分ひとりでは勝てない。チアリーダー、ボールボーイ、水の補給係、トレーナーなど色々な人がからまないと試合ができる。チームワークの意味が広くて大きいと感じました。

—小柄ですがポジションは？

小池 ランニングバックでした。162センチ、62キロ。前の方で相手とぶつかる選手たちは当時でも185センチ、100キロぐらい。試合中にハンドルを組んだ時の写真を見せられて初めて自分が小さいことに気づきました（笑）。

—ランニングバックの快感は？

小池 大学の時は、何も考えず、そのプレーの作戦で決められた「穴」を全力で走り抜けることだけでした。社会人になって素人を集めてチームを作り、プレーしながら指導もするようになってから、「ラン・トゥ・ディライト Run to

Daylight（有名な指導者V・ロンバルディの著書名）」「光がさす瞬間、そこに向けて走り込め」という言葉の意味がわかりました。チーム全体で色々な駆け引きをしている時、何とかが相手に勝てる一瞬がある。その一瞬の曙光に向けて全力で走り込む。ようやく30歳を過ぎて理解できたんですよ。

—「素人を集めたチーム」というのが、今日のハリケーンズですね？

小池 日立製作所の同好会として1978年に誕生しました。4部から始まって、大学のスター選手を取るのではなく、大学まで他のスポーツ

をしていた人も含め、一步一步積み重ねて3部、2部と昇格しました。そうした時にアメリカからコーチを招へいしたのです。

—ラリー・ドノヴァン コーチですね。

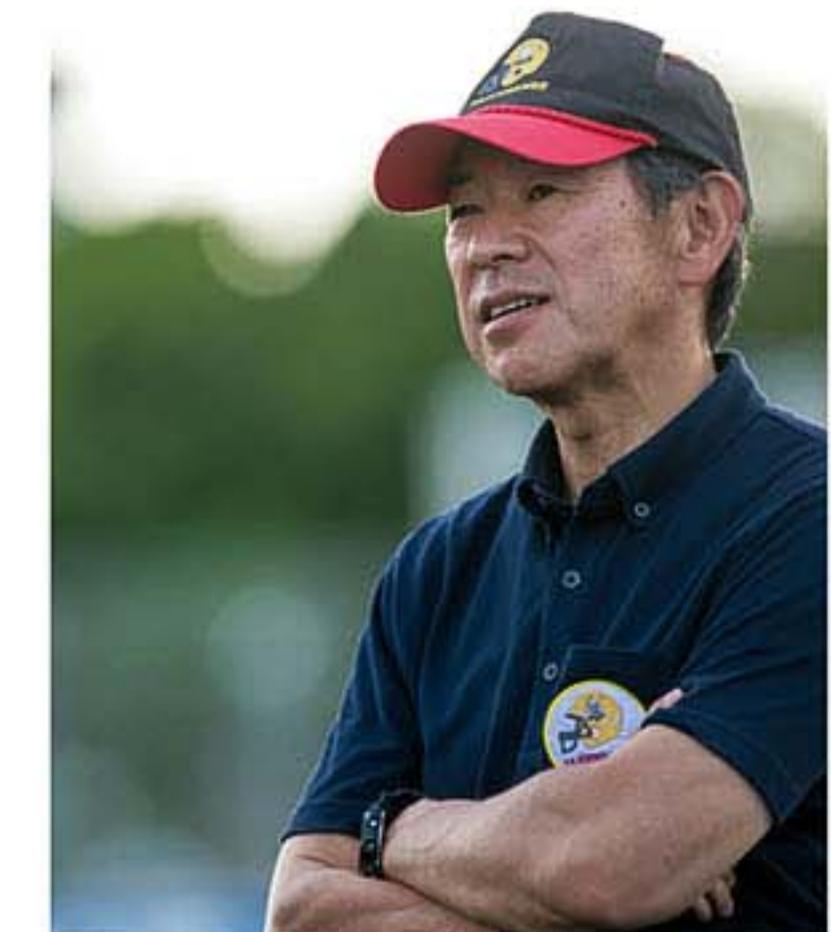
小池 モンタナ大学のヘッドコーチで、とても有名な方でした。無理矢理に口説いて来てもらいました。本来なら日本のきたないグラウンドで泥まみれで教えるなどありえない。彼には自分の国が生んだスポーツを日本に教えたいという宣教師のような気持ちがあったのだと思います。結局19年間、技術的指導に加えてとても重要なフットボールの精神を我々に教え続けてくれました。

—それは何ですか。

小池 「Do your own job!」と、彼は言い続けました。「周囲の人はどうでもいい。お前は自分のできること、自分のやるべきことだけに集中しろ」ということです。それぞれが与えられた責任を果たすことが、最終的にはチーム全体の力につながるということです。

—シンプルで、すばらしい言葉ですね。

小池 アメリカ人はよく「フットボールはビジネスそのもの」とか、また「人生そのもの」と



小池淳義 ●こいけ あつよし

千葉県出身。大学からアメリカンフットボールを始め、1978年大学院卒業後に入社した日立製作所で、1年目に素人10人をかけ集めアメフト同好会を立ち上げる。後に日立製作所（現ルネサステクノロジー）の支援を受け日立ハリケーンズのクオーターバックとして活躍。35歳まで選手兼監督として活躍した後、現在は総監督を務める。2007年よりサンディスク株式会社の代表取締役社長。工学博士。

楽しませておくのは

大住良之=文／荒川雅臣=写真
Text by Yoshiyuki Osumi / Photo by Masaomi Arakawa



小池 第一に「フットボールを心から楽しむこと」、第二に「勝利に向けて最後まで自分の持てる力を出し切ること」、そして第三に「多くのサポーターで盛り立っていることを認識し、感謝する」ということです。この三つを通じて自分をみがき、究極のゴールとして「社会に貢献すること」を、ハリケーンズの「ミッション」としています。そしてそのミッションを達成するためのチームの「コア（核）

として次の3つを挙げています。第一に「高い志をもつこと」、すなわちアメリカのプロにも負けない研究すること。第二に「感動を与えること」、見ている人に「すごいな、今日見に来てよかった」と思われる努力が必要です。そして第三が「Do your own job!」。

—社会に貢献することですか。

小池 勝ち負けを超えて、スポーツには本当の「ゴール」というものがあるはずです。特にア

メリカンフットボールという競技には、そういうゴールに我々を導いてくれる力があると、私は確信しています。

—すばらしいスポーツですね。

小池 そのとおりです。人類としては、アメリカ人だけに楽しませておくのはもったいない（笑）。日本人は、アメリカにない文化を活かし、日本流のフットボールを育てるべきだと思っています。



Impression

プロカメラマンが選ぶ〈サンディスク エクストリーム プロ SDカード〉×〈OLYMPUS OM-D E-M1〉

「デジタル時代に輝く光と影のコントラスト」

薬師洋行=写真／中山 淳=文 Photo by Hiroyuki Yakushi / Text by Atsushi Nakayama

手応え十分の最新型ミラーレス

「アメリカンフットボールを撮影したのは久しぶりだなあ。昔はミラージュボウルなんか撮っていたんだけど。この競技の撮影でまず難しいと感じるのは、次のプレーを予想しないといけないということだね。ゲームは敵チームとの騙し合いかから、うつかりしているとカメラマンも騙されてしまう。ここだとと思ってカメラを向けても、ボールが違うところにあったりして(笑)」

「Xリーグ」1stステージ、第一節。ウィンター

スポーツを撮り続けているベテラン、薬師洋行は、長年培った自らの感性に従って、富士通対ハリケーンズの一戦を楽しみながらファンで追った。

アメリカンフットボールの写真においても、薬師の作品には光と影のコントラストが際立つ。時に過酷な大自然の中で行われるスキーの撮影で磨き上げたその技術は、スタジアムでも生きている。予め仕上がりをイメージしているからこそ、1回1回丁寧にシャッターを押すことができる。

「撮影場所に着いたとき、何を撮るのか、どう

いう風に撮るのかといったことを、事前にイメージするようにしている。特にスキーを撮影する時は、選手だけを撮るのか、風景を入れて撮るのか、そういうことを色々考えて撮影ポイントを選ぶ。いくらシャッターをたくさん押しても後で捨てる写真が多くなるだけだから、できるだけ無駄撃ちをしない。それが、いつも自分の中で大切にしていることかな」

そう語る薬師が久しぶりのアメリカンフットボールの撮影で使用した機材はオリンパス「OM-D E-M1」。ミラーレスの最新機種だ。

最新技術と機材が促す原点回帰

2004年からオリンパスのカメラも使うようになったという薬師は、かつて70-80年代にハッセルブラッドの6×6を使っていました。丁寧にシャッターを押す技術が身に染みついている。これまで使ってきたオリンパスのカメラは、そんな薬師の撮影スタンスにもフィットするそうだ。

「OM-D E-M1は、オリンパスが今後ミラーレスに特化していくと発表した後に登場した最新機種。実際に使ってみたけど、何の違和感も

アメフトの花形はクォーターバック。オフェンスチームの司令塔としてゲームを作る。ランニングバックにボールを渡すのか、ワイドレシーバーにバスを投げるのか、自身がボールを持って走るのか。カメラマンも騙されないように必死だ。

2013.9.1 富士通フロンティアーズ×ハリケーンズ 川崎球場
OLYMPUS OM-D E-M1 ZUIKO DIGITAL ED 90-250mm F2.8
1/400 F2.8 ISO1600 ホワイトバランス オート
サンディスク エクストリーム プロ SDカード 64GB



サンディスク
エクストリーム プロ SDカード 64GB

なく撮影できるし、今後の進化も期待を持っているだね。それと、オリンパスのカメラは機材が軽くていい。スキー撮影の時なんか、スキー靴を履いて、スキーを抱えて、それはもう大変な荷物の多さだからね。この歳になると、山に登って撮影する時は、機材が重いとそれだけで大変なんだ」

オリンパスのカメラと組み合わせたのは、サンディスク エクストリーム プロ SDカード 64GB。記録メディアとして、世界最高水準の書き込みと読み込み速度を誇る。「僕の場合、JPEG画像とRAW画像を同時に撮影しているから、どうしても撮影データの容量が大きくなってしまう。だから、書き込み速度はできるだけ速い方がいい。そういう意味で、長年愛用しているサンディスクの記録メディアは撮影中もストレスがなくていい。今回のようないい新しいカメラでも問題なく使えるから安心だしね」

2001年の年末頃からデジタルカメラに切り替えたという。大量のフィルムをバッグに詰め

て山に登らなくて済むようになったことで「随分とスキー撮影が楽になった」そうだ。たった1枚の小さな記録メディアが、36枚撮りフィルム何十本分もの役割を果たしてくれるのだから、やはりテクノロジーの進化は偉大である。「最近はまた原点に戻ったというか、スキーの写真を撮るために、山に登ることが多くなっているんだ。真っ白の雪山に太陽が昇ると、斜面に光が当たってきて、影も生まれる。そこをスキーヤーにどんな風に滑ってもらうのか、あるいはスキーヤーがどんな風に滑りたいのかを、お互いにイメージし合いながら撮影する。カメラマン、スキーヤー、そして自然との共同作業だよね。それを作り上げていく楽しさというのは格別だよ。そして、それが僕の原点なんだ」

デジタル時代の最新カメラと、最高水準の転送速度を持つ記録メディアを使いこなす薬師。まだまだ撮影意欲が衰えることはない。そして軽量化されて使いやすくなった最新機材の力は、原点回帰の作品づくりをより充実したものにしているようだ。



薬師洋行 ●やくしひろゆき

富山県生まれ。京都外国语大学、東京写真専門学校卒業。AJPS監事。スキーワールドカップをはじめ、夏季・冬季五輪、アルペン世界選手権ほか、様々なスポーツの世界大会を取材。2012年FIS(国際スキー連盟)ジャーナリストアワード受賞。AIPSベテラン五輪ジャーナリスト賞受賞。1988年写真集「薬師洋行の世界 Ski Racing '69-'88」(学研)を出版。同名の写真展ほか、「Love Ski Racing」世界のレースシーン1969~2003 & 日本選手たちの軌跡など写真展を多数開催。

SanDisk®

最大160MB/秒^{※1}の世界最速^{※2}

256GB大容量コンパクトフラッシュ、新登場

VPG65に対応し、シネマ品質の4K動画撮影に最適な

サンディスク最高峰のコンパクトフラッシュ、エクストリーム プロ シリーズ。



最大
160 MB/秒
の読み取り速度

サンディスク エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ[®] カード

256GB UDMA7対応

UDMA7

UDMA7対応カメラとの組み合わせで、
高精細映像の録画や連続撮影をより快適に。

[VPG65]

65MB/秒の最低転送速度を保証する
ビデオパフォーマンスギャランティーVPG65に対応。
シネマ品質の4K動画の撮影や録画に最適。

[大容量]

256GBの大容量で、高速連写による
膨大なRAW+JPG画像も、
4K動画・フルHD動画も保存。

[耐久性]

衝撃、振動、気温、湿度など過酷なテストをクリアし、
極限の状況下でも正確に動作するよう設計。

[信頼性]

厳しいストレステストをクリアした無期限保証^{※3}付き。

超高速性能・大容量

Extreme Series

エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの85.5%^{*}から『安心のブランド』と評価されました。*2012年8月当社調べ(複数回答あり)。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/leader2012/>

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界^{*}・国内^{**}シェアNo.1ブランドです。 サンディスク

検索

*2012年Gartner調べ(Gartner Dataquest ID No G00252212, 05/15/13) **2012年GfK Japan調べ(家電量販店販売実績集計 メモリーカード・数量シェア) ©SanDisk. SanDiskロゴ、Compact Flash、コンパクトフラッシュ、及びSanDisk Extreme Proは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。 *1 最大書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。読み取り速度はこれより遅くなります。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。1.1メガバイト(MB)=100万バイト。1ギガバイト(GB)=10億バイト。1倍速=150KB/秒。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。*2 256GBの商品に限ります。*3 保証内容に基づきます。